

弥彦村社教だより

平成30年 8月17日 NO.10
弥彦村社会教育委員の会

《先進地見学に行ってきました》

どこの市町村でも子育て支援は重要な課題です。弥彦村には子育て支援センターが保育園に併設されています。私たち社会教育委員は、先進地・長岡市の子育て支援施設『てくてく』『ぐんぐん』を訪問しました。各施設で、責任者の方からお話を伺いました。これらの施設は、遊び場としてだけでなく、保育、多世代交流、子育て相談の場として広く活用されていました。いずれも、長岡市民以外でも利用可能です。それぞれの施設について紹介します。

てくてく 長岡市千秋 利用者数 (平日) : 200~300人 長岡市運営	<ul style="list-style-type: none">・開館時間9:00~18:00 (水曜休館、祝日の場合は営業) (年末年始休館)・保育士8人、相談員(コンシェルジュ)1人が交代で常駐・最長8時間まで一時保育が利用可能(1時間300円)(申し込みは前日まで)(生後6か月から就学前の長岡市に住所を有する)
--	---

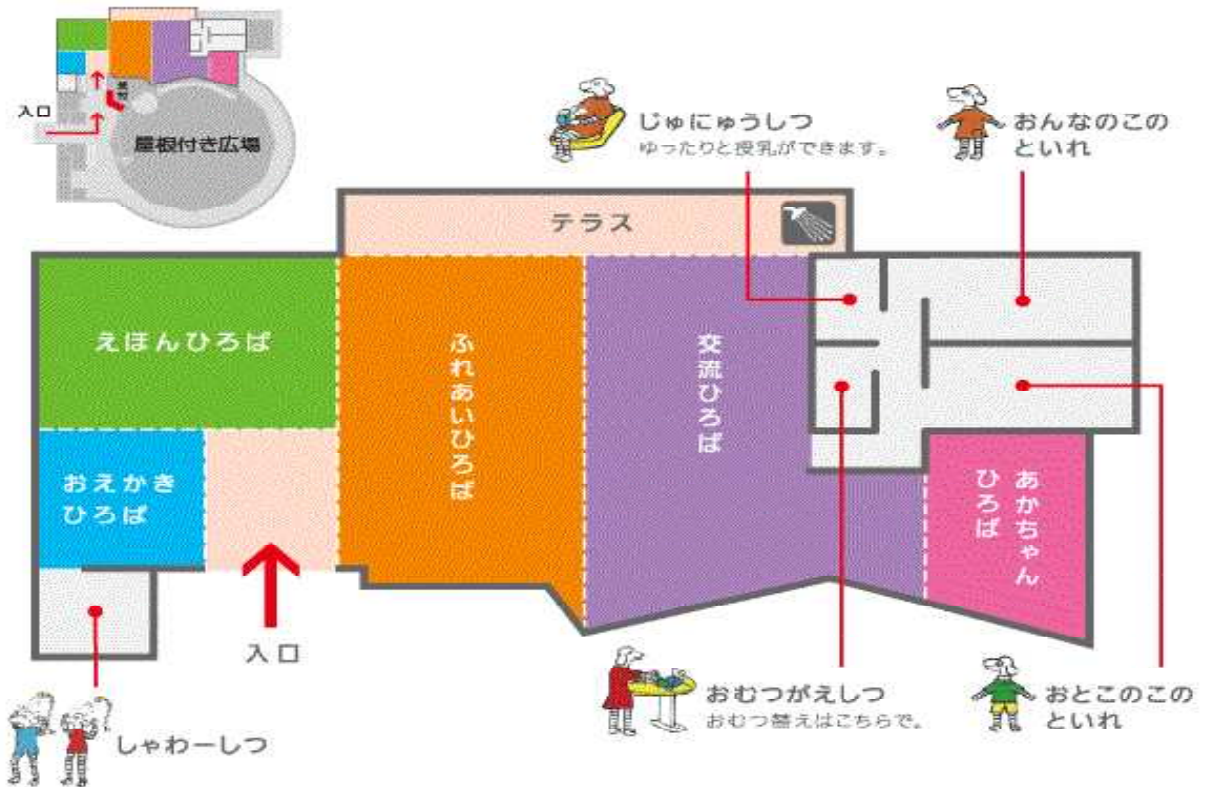
●てくてく施設マップ



- ▼交流サロン(さんかく)では飲食も可能
- ▼運動広場(しかく)には冷暖房設備はなく、あえて外と同じ環境で遊べるエリアに
- ▼信濃川沿いの公園も広くのびのびと遊べる(受付不要)
- ▼開館時間が長いため、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、就学前の子供と誰でも利用しやすい
- ▼サポーター(ボランティア)によるイベントを月曜日に開催(イベントはほぼ毎日開催)
- ▼せんしゅう保育園(一時保育)が施設内にあり、30分単位で利用できる
- ▼職場体験で学生も利用している

<p>ぐんぐん 長岡市千歳 (市民防災センター内) 利用者数 (平日)：100～200人 NPO 法人運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開館時間9：00～18：00 (火曜休館、祝日の場合は営業) (年末年始休館) ・保育士3人、子育て支援員3人、職員が交代で常駐 (職員も地域子育て支援士：全国連絡協議会認定資格) ・母子避難所 (0～3歳児とお母さん) に指定されている
---	--

●ぐんぐん施設マップ



- ▼全体が見渡せるフロアーになっていて、安心して子供を自由に遊ばせられる
- ▼スタッフと利用者の距離が近く、男性スタッフもいるので、お父さんも利用しやすい
- ▼行政との連携で家庭の必要に応じて市の相談部署につないで利用者のサポートを
- ▼防災関係のイベントを月1回開催 (イベントは多数回開催)
- ▼防災学習展示施設が2階にある (文責 本間)

《社会教育委員等研修会参加報告》

6月22日に長岡市中央公民館にて開催された上記研修会に参加してきました。

午前中は前全国社会教育委員連合常務理事、松本登氏の講義。「社会教育委員の役割と全国大会招致の意義」をテーマに、社会教育委員の発足 (昭和20年) の経緯、全国社会教育委員連絡協議会の設立 (昭和38年)、各県別組織の設立 (新潟県は昭和38年)、昭和25年から続いている全国社会教育委員研究大会の意義等の講義。社会教育の原理・意義・有用性・ニーズ反映の工夫、など社会教育委員の歴史や普段の活動の参考になる他県の活動事例を聴く事ができました。

特に面白いと思ったのは香川県丸亀市の事例、委員数10名で一番若い委員が会長。会議は年2回から4回へ。平成28年は10回会議をし、第3次生涯学習推進計画を策定。計画策

定のために5名の臨時委員を嘱託（指名3・公募2名）。行政説明の時間を短縮、委員相互の意見交換時間を尊重、教育委員会との連携などとても参考になりました。

午後は**出雲崎社会教育委員、磯部友記雄氏の『出雲崎の社会教育について』事例発表**。出雲崎町は教育委員会の公民館活動と連携して小中学生のみならず、地域住民を対象に郷土学習『良寛学習』を行っており、「良寛の心を知ろう」をテーマに学習し、ゆかりの寺に行き住職から講話を聴いたり、書道大会を開催したりしています。また出雲崎総合大学という町民を対象とした学習講座を開き、町をあげて良寛に関する研究を生涯学習として積極的に行っています。

事例発表の後はワールドカフェ方式のワークショップ、「どんな全国大会を新潟から発信できるのか」というテーマで4名のグループに分かれて話し合い。来年の全国社会教育研究大会が新潟で開催されるということで、大会スローガンや分科会、アトラクション、講演会をどのようにしたら良いか等、他市町村の委員と意見交換を行いました。

今回の研修会は県内の市町村の社会教育委員、役所教育課職員、県教育庁職員など様々な方が参加しており、他の各市町村の社会教育委員がどのような活動を行っているか情報交換ができて有意義な研修会でした。（文責 丸山）

《地域からの情報・・・おもちゃポケット》

地域でボランティアに取り組んでいる『おもちゃポケット』を訪ねました。活動についてお話を聞かせていただきました。

Q. 主な活動内容を教えてください。

A. 平成3年から『おもちゃの図書館全国連絡会』という組織の中で活動しています。現在は13人できらめきの丘・作業工房を拠点に布製品を製作して（第2、4金曜日に製作活動）います。

【主な活動】

- (1) 月1回（第1水曜日）子育て支援センター・たんぼぼ広場で私たちの手作りおもちゃを使い、子供たちと遊んでいます。
- (2) 年1回お正月に桜井の里福祉会・配食ボランティアの配食先に布製の干支をお届けしています。（60個程度作成）
- (3) 村の金婚式のお祝い品として、ふくろうのぬいぐるみを製作しています。

時間と手間をかけてコツコツ作られた布製のおもちゃは既製品にはない温かみを感じます。手作りおもちゃの先に人との繋がりが感じられる活動をされていました。作業工房の隣にある《こいて茶屋》に月1回お茶に招待されているお礼にエプロンやのれんをお返ししたそうです。心のこもった返礼品がこいて茶屋の入り口を飾っていました。



(4) 10月末の農業祭のバザーに出品しています。

(5) おもてなし広場・さややで牛乳パックの椅子の販売をしています。

Q. 活動の中で感じていること

A. 布芝居（紙芝居の布版）を27年間で、仲間と協力しながら22本製作することができ、嬉しかったです。毎年、配食ボランティアで届けている干支を玄関に並べて下さっているのを見ると励みになります。材料は寄付して頂いた着物やネクタイなどでほぼまかない、27年間変わらぬやり方で活動を続けてこられて有難いと思っています。今はきらめきの丘に拠点ができ、腰を据えて製作活動ができるようになりましたが、新しい仲間が増えないことが不安材料でもあります。

Q. 告知がありましたらお願いします。

A. 新しい仲間を募集しています。布芝居の貸し出しもしています。ぜひ、ご利用下さい。また、イベントへの参加依頼がありましたらお問い合わせください。

(連絡先：社会福祉協議会94-4551)

(文責 本間)

《地域おこし協力隊 No.2として就任いたしました》 松本 英津子さん



7月18日より地域おこし協力隊として埼玉県川口市より弥彦村へ移住してまいりました。弥彦村にきて2週間。燈籠まつりに弥彦競輪ふるさとカップに・・・とあわただしく過ぎていく日々の中、仕事帰りに見える田んぼと弥彦山、広い空の風景に癒されています。

現在、役場に席を置きながら弥彦村の2大産業である農業、観光関係の方々より幅広い知識を吸収させていただいています。弥彦村のことはもちろん、新潟県のことわからないことだらけで勉強の日々ですが、ゆくゆくは弥彦観光のインバウンド対応（外国人旅行者受入対応）に特技の英語力を生かして行きたいと考えています。英語に関して困ったことがありましたらいつでもお声かけください！

＜松本英津子さん＞

表立った活動は見られないかもしれませんが、裏方として弥彦村のみなさんの力になれるようひとつひとつ確実に進んでまいります。どこかで見かけたらぜひ声をかけてください！そして弥彦村のいいところやオススメスポットたくさん教えてください！どうぞよろしく願いいたします。

委員長 堀 隆行（弥彦中学校長）

副委員長 平井 茂人（村山）

委員 本多 隆峰（麓一区）

委員 柏原 路子（麓二区）

委員 丸山 浩（弥彦）

委員 本間 美幸（弥彦）

委員 那須 裕美子（川崎）

事務局 本多 正（教育課）

※ ご意見のある方は、近くの委員、もしくは中学校、教育委員会事務局に
お電話ください。（中学校94-2101 事務局94-1021）